



撮影場所◎マイ英語スクール南山形校(山形市)

♪ 定住のきつかけと山形に暮らす思い

平具蘭土さんは、ALT期間終了後、せっかく覚えた日本語を忘れたくないと、山形市内の高校の英語教師の道を選びました。

「取り組むほどに、教える「ことが楽しくなり、教育をライフワークにしたいと考え、一度帰国し、大学院で教育学を学びました。」

その後、知人が東根に開校した英会話教室を引き継ぎ、経営基盤を整えるとともにカリキュラムを充実させました。今も一人の教師としてクラスを担当しています。」

一方の山下さんは、来日前に鶴岡市をインターネットで検索したところ英語の情報が少なかったことから、来日後、ブログで庄内の観光情報を発信し始めたそうです。

「鶴岡に来て、日本人の友だちと羽黒山などを観光し、素敵な場所がたくさんあることを知りました。その魅力をもっと多くの外国人に伝えたいと思い、観光情報サイト「The Hidden Japan」を開設しました。」

♪ 観光資源の豊かさとお山形人の気質

山形の魅力を「まるで日常が博物館のよう」と話す山下さん。

「何百年も続く伝統や祭りが今も受け継がれていることに驚きます。自然が豊かで、温泉も多く、何より劇的に変化する四季折々の表情は、何度でも訪れる価値があります。」

個人的には、京都の嵐山より出羽三山のほうが魅力的です。日本海のシーフード、山伏の精進料理など、人生で初めて味わうものばかりです。平具蘭土さんがこれに応えます。

「食の魅力は大きいですね。農家や農作物と私たちの暮らしがとても近いと感じます。東根なら、さくらんぼ農家を兼業している人も多く、自然との関わりが深い地域です。」

また、山形の人たちは仲間として受け入れてくれるまでの時間を大切にするとお二人は声をそろえます。「観光客や訪問者に対してはとてもフレンドリーですが、いざ住むとなると、コミュニティに入るまでが大変。しかし、それは地域の絆が強い

♪ 海外向けの情報発信と人材育成を通して

ことの裏返しで、言葉や態度に心が通っていることがわかりました。」

山下さんは、英語圏向けの情報発信がもつと必要だと言います。

「日常的に外国人観光客を見かけることがまだまだ少ないのが現状です。山形に何があつて、どんな体験ができるのか、それをストーリー立てて伝えることが大切です。」

観光プランやコース設定についての問い合わせも多く、これらのリクエストに因應するため、地元の食とのコラボやツアー会社向けの旅行商品の立案協力、英語を話せるガイドの育成なども必要です。今後は、内陸部も視野に入れ、ビジネスとして成り立つ展開を目指しています。」

「確かに山形で英語を話せる人は少ないですね」と平具蘭土さん。「英語が使えることで、自分自身の世界が広がり、チャレンジ精神も育まれていきます。そうした人材を山形に増やすためにも、教室の質を上げていきたいです。」

へいぐらんど らいあん  
平具蘭土 来安 さん(東根市)

◎アメリカ・オレゴン州出身、東根市在住。英会話教室「マイ英語スクール」学校長。1998年、来日。語学指導等を行う外国青年招致事業(JET)を通じ、真室川町でALT(外国語指導助手)として勤務。2008年、同スクールの経営を引き継ぎ、県内外に10教室を展開。2014年、認可外保育施設では県内初の英語保育を行う「バイリンガル学園」を開校。

やました  
山下 デレック さん(酒田市)

◎アメリカ・カリフォルニア州出身、酒田市在住。観光プロモーション会社「The Hidden Japan合同会社」インバウンド・スペシャリスト。2015年、ALT(外国語指導助手)として来日し、鶴岡市内の小中学校で指導。その後、県内企業にフォトグラファーとして勤務。同社代表・山科さおり氏と出会い、本格的に観光情報サイトを立ち上げ、英語圏向けのプロモーションを担当している。

keyword

## 世界から見た山形

英会話を通して教育現場から山形に深く根ざし、  
また、山形の観光資源のポテンシャルを知り、外国人向けに情報を発信する。  
そうした海外出身のお二人に山形の魅力をお聞きしました。

マイ英語スクールでは、大人向け、子ども向けのカリキュラムのほか、家族同伴での海外旅行やイベントも積極的に開催。写真は「Sports Day Event」での一コマ。教室で学ぶだけでなく、交流や体験を通して英語を身につけることができる。



加茂水族館での「ふぐ」のワークショップの様子。写真左は同館レストランの須田シェフ。「The Hidden Japan」では、単なる観光名所や地域情報、観光ルートの紹介だけでなく、ワークショップなど体験型のイベントも企画提案している。

